

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 日本国語教育学会

(代表者 田 近 洵 一 会員数 約3,200人)

TEL 03-6801-5951

1 前 文

(1) 現代文分野

評論は現代的な文章で、テーマは一貫しており、高校生にはなじみやすいと思われるが、評論の形としてははっきりしていない。「キャラクター」と「アイデンティティ」の整理が甘い点があり、最近の評論に多い、主張の見えづらい文章である。高校生にとって客観視できにくく、実体験によって受け取りの差があったと思われる。小説は同時代のものではないが、作品世界はイメージしやすい。ただ、列車のボックス席などは地域によっては想像しにくいだらう。情景の読み取りは比較的容易だが、「私」の心情は読み取りづらく、家族の感覚を受験者が自分の感覚とどこまで合致させられるかで点が分かれたであろう。

(2) 古典分野

古文は、例年に比べ平易だった。単独の問題としては易しすぎるが、国語全体のバランスと平均点の結果で考えると、妥当だったと言える。ただし、年による読みやすさの変動があまりにも大きい傾向があるのは改善してほしい。漢文は、量・レベルともに適切で、問いにも大きな問題はなく、妥当な出題であったと言える。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等

第1問 問題の分量は少なくなった。現代的な文章で、出題もオーソドックスであった。

問1 音も訓も入っていて良い。(ア)①③などになじみのない語彙を入れる工夫がある。

問2 ストレートでスタンダード。導入として必要だが、問いは易しすぎる。

問3 問うている場所は良いが、問い方に難あり。「関係」を問うているが、答えになっていない。②は「後ろめたさ」などの言い換えであろうが、これでは⑤も消しにくい。「個別的」が誤りなのだろうが、当たり障りのない②が正解で、記述だとこの解にはならない。

問4 問う箇所と設問は良い。正解の④「人間関係が明瞭になり」が、「単純」の言い換えだろうが、正答として不安定な感がある。ただ、キャラについて考える上では、傷が明確で迷うことはなく、適切。選択肢が長いのは、文章が易しいので長くしたということか。

問5 問いの形式に戸惑った受験者も多かったかも知れない。作問の苦勞は分かるし、悪くはないが、こうした意図がやや不明。もっと全体を見渡せる問いでも良かったのではないか。誤答の①と③が同意見なのは要工夫。結局は読解の問題にすぎなくなってしまっている。

問6 「適当でないもの」を選ぶのは、普段の授業でやっているのとは逆のことで、大学入試センター試験では避けたいところ。まとめの問題であるはずが、全体ではなく個別の問いになっている。モダリティの問いにした方が良い。表現を問う意図はわかるが、結局は一つ一つに当たって正誤を判定するだけのものになっている。

第2問 全文出題のためか、問題文は少々長い。都会の受験者には分かりにくかったであろう。

問1 (ア)そもそも「目つき」で良いのか?(イ)正答③「投げやり」まで含むかどうかは疑問。そう読ませたいのであろう。(ウ)特に問題なし。

- 問2 問題は特になし。前提としてふさわしい良問。傍線がないのは珍しい。ただしこのあと問4まで心情を問う問題が続く。問いのバランスを取ってほしい。
- 問3 特に問題なし。子供とのやりとりから変化を読んでいくもので、小説の問題として必然的な問いになっている。
- 問4 スタンダードな問題。必要な問いであり、正答もよく書けている良問。
- 問5 実質は心情を問う問題。問うべき箇所を問うており、スタンダードな問題。正答②は妥当だが、「うまく言葉にできないでいる」は、子供の心の中に焦点化した表現にしてほしい。
- 問6 やや問題あり。「適当でない」ものを二つ選ばせているが、②も適当ではないのではないかな。適当でない程度を比べて、より適当でないものを答えさせていると思われる。出題者が、「こう読ませたい」と思っているのではないかな。
- 第3問 『今昔物語集』からの出題。説話からの出題は、珍しいが、教科書の採録教材から考えると、今回のように、時折はあるべきである。
- 問1 (ア)基本的には単語の問題が一問あるのは良いであろう。(イ)重要な単語なり文法事項を問うていて良い。反語の出題は適切。(ウ)古文独特の副詞を聞いているのも良い。「いかに」の具体的な内容を尋ねているのも良いだろう。
- 問2 基本的な助詞に関する出題であり、この形式での問い方は適切である。
- 問3 直前が理解できていれば解ける問題で、出題の姿勢として適切。ただし、答えの根拠の部分に他の問題の波線部はない方がよい。
- 問4 根拠が明確で妥当な出題。
- 問5 「適当でないもの」を問うており、これは原則的には避けたいが、選択肢がそれほど長くないので確認しやすく、よく出来ている。内容の正誤判定は必要な問いである。
- 問6 説話というジャンルの門質に迫る、根本的なテーマを考えさせる問題。仏教説話で何を伝えようとしているのかを問うていて、当時の世界観がわかるかどうかをはかる良問。
- 第4問 古文ほどわかりやすい紋章ではないが、古典2題のバランスはよく取れている。
- 問1 (1) 文脈で考える問題で、適切。(2) 知っておくべき語を問うており、適切。
- 問2 基本的に忠実な出題になっていて、妥当な問題。
- 問3 「不置」の意味の解釈ができるかどうかポイントだが、「それはさて置き」などの現代語の感覚と文脈で判断できる箇所であり、適切な出題である。
- 問4 返り点と書き下し文の組合せの問題は適切。書き下し文や直後の文の構造とあわせて考えられるようにできている、工夫された問題で適切。
- 問5 使役の表現を意識しているところを問うている。基本的な使役形を含む箇所、ぜひ問いたいところであり、妥当。
- 問6 内容を整理する問題。問うべき内容ではあるが、解く時の過程としては消去法になりがちで、選択肢にもう一工夫ほしいところである。
- 問7 内容として最も理解すべきまとめの部分を、基本的に忠実に読めば解ける問題で、妥当。